

優秀賞

息子と孫へ

小林 公子 福島県東白川郡 五十八歳

今年も暑い夏が続いています。朝起きて、茶の間の戸を開け網戸にすると、見事に百日紅が咲いています。今年は一層きれいに咲いている様に思えるのです。それは、君が小学校を卒業する時に記念樹として植えた物でした。あれから十六年が経ちましたが、当時、針金の様に細く五十センチ位の苗で、こんなに細い苗が育つのかしらと思う程でした。当初、南側の蔵の側に植えたせいかな風通しが悪く、花が咲いても葉が病気にかかってしまい、お父さんが大きな苗をせつせと裏庭に移動しました。それから成長ぶりを見せ、毎年満開に花を咲かせ、夏の我が家の庭を彩ってくれます。思い起こせば君は、中学校から私と会話が少なくなり反抗期突入でしたね。末っ子長男で家族から愛情たっぷり育てられました。少々わがままでハメを外してハラハラドキドキする事もあり、心配も多かったのです。その君が、昨年優しく可愛いお嫁さんを迎え入れました。結婚式後の二次会で五十人の友人に囲まれ、私が書いた母からの手紙を友人から読んでもらい、君が涙した事を、お嫁さんがそっと私に教えてくれました。今年の六月に孫が誕生。百日紅の咲いている庭で孫をベビーカーに乗せてお散歩する時が、今の私の至福の時です。そして、「これが、お父さんの記念樹だよ」と語りかけています。燃える様に咲く百日紅。少々夏バテ気味の私を応援してくれる花となり、これからも家族を見守ってくれる事でしょう。